

京葉銀行のコミュニケーションシンボル



「**A**」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、人と人との「きずな」と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。

コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、

“人とのきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”

“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”

そんな京葉銀行の思いをあらわしています。



ミニディスクロージャー誌

2019年3月期
営業の中間ご報告



LINE@ 京葉銀行 公式アカウント

@keiyobank ぜひお友だち登録してくださいね!
楽しいコンテンツやLINE限定の特典も!

LINEアプリで公式アカウントを検索
京葉銀行



京葉銀行

本店 〒260-0015
千葉市中央区富士見1-11-11
千葉みなと本部 〒260-0026
千葉市中央区千葉港5-45
TEL. 043(306)2121
<https://www.keiyobank.co.jp/>

2018年11月発行



京葉銀行

ACTION PLAN 2021

～さらなる飛躍～

計画期間 2018年4月～2021年3月

基本方針(スローガン) | 「お客さま・従業員の満足度No.1の銀行」

基本戦略

- 1 お客さまに寄り添った営業の実践**
 事業性評価による中小企業向け貸出強化
 ソリューションビジネスの強化
 住宅ローンビジネス・資産形成ビジネス・相続ビジネスの展開
- 2 オムニチャネルの構築**
 次世代型店舗等の対面チャネルの充実
 ICTを活用した非対面サービスの強化
- 3 全従業員が活躍するプロフェッショナル集団への変革**
 多様なキャリア形成・能力開発への取り組み
 働き方改革の推進
- 4 ローコストオペレーションと利益拡大**
 BPRとデジタル化の推進
 営業体制の見直しと成長エリアの強化

計数目標

2021年
3月期



目指す
銀行像

お客さまに信頼と利便性、高い満足度を提供できる魅力のある、活力あふれる銀行



当行のプロフィール

名 称 / 株式会社京葉銀行	預 金 / 4兆5,694億円
英 文 名 称 / The Keiyo Bank, Ltd.	貸 出 金 / 3兆5,274億円
設 立 / 1943年3月31日	自己資本比率 / 単体 10.97% (国内基準) 連結 11.00%
資 本 金 / 497億円	格 付 / A-(S&Pグローバル・レーティング) A+(株式会社日本格付研究所)
本 店 / 千葉市中央区富士見1丁目11番11号	拠 点 / 店舗 122ヵ店 (本支店: 120ヵ店 出張所: 2ヵ店)
千葉みなと本部 / 千葉市中央区千葉港5番45号	外貨両替出張所 4ヵ所
従 業 員 / 2,114名	店舗外ATMコーナー 160ヵ所 (2018年9月30日現在)
総 資 産 / 4兆9,026億円	

Contents

第18次中期経営計画	2	2018年9月期 業績のご報告(単体)	13
トップメッセージ	3	財務諸表(単体)	15
持続可能な社会を目指して	5	株主の皆さまへ	16
地域活性化のために	7	株式情報・役員	17
さらなる発展へ向けて	11	店舗・本部地図	18

トップメッセージ

はじめに

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、「ミニディスクロージャー誌」を作成いたしましたので、ご案内を申し上げます。ご高覧の上、当行に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

日本経済は、相次ぐ自然災害の発生により、消費・生産面の一部に影響が生じたものの、雇用・所得環境の改善が続くなど、緩やかな回復基調が続いています。一方で、金融機関を取り巻く環境は、日本銀行によるマイナス金利政策を軸とした金融緩和政策の長期化や、異業種の参入により、厳しい収益環境が続いています。また、人口減少、少子高齢化の進展やデジタル化の加速等、社会構造は大きく変化してきています。

当行は、こうした変化に的確に対応し、地域とともに持続的な成長を目指していくため、本年4月より、3年間を計画期間とする第18次中期経営計画「 α ACTION PLAN 2021～さらなる飛躍～」をスタートさせました。

取締役頭取

熊谷俊行

第18次中期経営計画

第18次中期経営計画は、基本方針として「お客さま・従業員の満足度No.1の銀行」を掲げ、4つの基本戦略「お客さまに寄り添った営業の実践」、「オムニチャネルの構築」、「全従業員が活躍するプロフェッショナル集団への変革」、「ローコストオペレーションと利益拡大」を推進しています。

こうした戦略に基づいた取り組みを着実に実行し、質の高いコンサルティングを提供していくことが、お客さまの満足度を高め、地域と当行がともに豊かになることに繋がると考えています。

また、ESG（環境・社会・ガバナンス）、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した経営を実践していくことで、企業価値の向上や、地域社会への貢献にも取り組んでいます。

中期経営計画初年度の取り組み

第18次中期経営計画の初年度となる本年度は、それぞれの地域や企業が抱える課題の解決に向けた支援をすることで、より一層のコンサルティング機能の発揮に努めています。具体的には、千葉県香取市で古民家を改修した宿泊施設の開業を支援するなど、観光振興によるまちおこしに貢献しているほか、「アルファバン

クの後継者塾」の第3期を開講し、企業の後継者育成による事業承継支援も強化しています。

また、お客さまの利便性向上やお客さまとの接点拡大に向け、FinTech企業との連携により非対面チャネルを強化するなど、オムニチャネル化に向けた取り組みを進めています。さらに、業務改革や効率的な店舗運営といったローコストオペレーションを実践するべく、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の専門部署を新設し、定型業務の自動化を推進進めるなど、生産性の向上にも積極的に取り組んでいます。

人財面においても、70歳まで継続雇用する制度を新設し、専門知識や豊富な経験を有するシニア行員が若手行員の育成といった活躍の場を広げるなど、全ての行員が高いモチベーションを持って活躍できる職場環境整備を進めています。

結びに

こうした取り組みを通じて、全てのステークホルダーの皆さまの期待にお応えできるよう、京葉銀行グループの役職員一同、全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年11月

持続可能な社会を目指して

地域金融機関として、SDGsに向けた取り組みを通じ、持続可能な地域社会づくりに、より積極的に貢献しています。



TOPICS

SDGs(エスディーゼイズ)ってなんだろう?

人類は、貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇など、数多くの課題に直面しています。このままでは、安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまう…そんな問題意識から、国連において、すべての人々にとってより良い世界をつくるために課題を整理し、採択された「2030年までの達成を目指す17の目標」が、「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」です。



産学連携の環境活動

2017年7月より、千葉大学環境ISO学生委員会と協同し、地域活性化と環境に貢献するために、「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」を展開しています。

3つの柱で構成される本プロジェクトは、地域社会への貢献だけでなく、SDGsの達成も目指して、ますます活躍の場を拡大しています。



プロジェクトの全体像 ~7色の虹を千葉から未来へ~

・環境ISO学生委員会の情報発信強化と活動支援

学生が国内外の会議や大会に参加することを支援し、環境に関する情報発信の場を提供しています。

・エコアクション21取得コンサルティング

学生と連携して、お取引先企業にコンサルティングを行うことで、環境認証であるエコアクション21の取得を支援しています。

・学生発案の7つの環境貢献企画

環境意識の啓発を目指して、学生からの100以上の提案をもとに、会議を重ねて決定した7つの企画に取り組んでいます。



京葉銀行に小型家電回収BOXを設置「都市鉱山発掘プロジェクト」

- ① 千葉大生とともに考える企業のための環境ゼミナール(エコゼミ)
- ② こどもエコまつり
- ③ 千産千消フェア「ちばを食べてエコしよう」
- ④ Chibaクリーンアクション
- ⑤ 都市鉱山発掘プロジェクト
- ⑥ エコ発信局
- ⑦ 京葉銀行エコチャレンジ



沖ノ島周辺の環境保全活動「Chibaクリーンアクション」

地域活性化のために

地元千葉県とともに豊かになり、地域のお客さまにとって一番身近な銀行となるべく、さまざまな取り組みを通じて、地域活性化に貢献しています。



観光によるまちおこし

観光による地域経済の活性化を目指し、地方公共団体等と連携し、さまざまな取り組みを行っています。

千葉県香取市においては、歴史ある町並みに代表される観光資源の活用により、地域振興を推進しています。

TOPICS

香取市ってどんなところ？

千葉県北東部に位置し、舟運で栄えた町の佇まいを今に伝える小野川沿いには、「北総の小江戸」とも呼ばれる佐原の町並みが広がります。

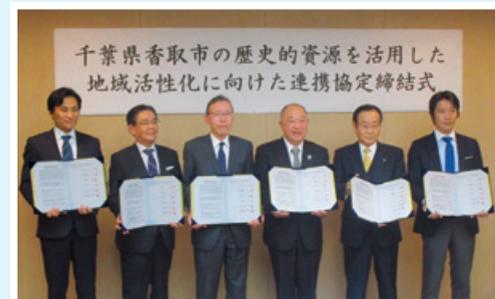
土蔵造りの商家や町屋が軒を連ね、重要伝統的建造物群保存地区にも選定されており、散策する人々を、遠く江戸時代にタイムトリップしたような気分に誘う町です。



香取市における当行の取り組み

・地域との連携

2015年度から、香取市や地域経済活性化支援機構(REVIC)等と連携して、「千葉・江戸優り佐原観光活性化ファンド」を設立するなど、地域経済の活性化を目指し、継続的に支援を行っています。



・古民家ホテルオープン

2018年3月に、ファンド第1号案件として出資した古民家や蔵を改修した宿泊施設やレストランがオープンしました。

2018年11月には、ファンドの支援によりオープンした古民家ホテルが7棟まで増え、今後も取り組みを広げていきます。

・アンテナショップ開設支援

観光振興にとどまらず、地元の特産物等の販路拡大を支援しています。

2018年3月には、ファンドを通じて、香取市の特産物や工芸品をインターネットで販売するアンテナショップの開設を支援しました。



アグリビジネスへの取り組み

2009年度のアグリビジネス部門の立ち上げから、千葉県の温暖な気候と首都圏に位置する立地条件のもと、「農業王国ちば」の確立に貢献するため、農業ビジネス分野への支援を続けています。



・農業参入への支援

千葉県農業会議と連携し、法人設立から、計画書作成、認定取得、販路拡大まで包括的な支援を行っています。

2018年9月までに、19社の農地所有適格法人の設立を支援しました。



・1次産業の課題解決支援

サポート機関等と連携し、各課題別の専門家派遣により、新商品開発や販路拡大、ものづくり補助金等の申請を支援しています。

2018年9月には、いちご栽培ハウスへのIT(環境制御システム)導入を支援し、生産性向上に貢献しました。

・6次産業化*の支援

地域資源を活用し、新たな付加価値を生み出すことを目的に、6次産業化の提案や、6次産業化サポートセンターと協力して法認定申請の支援、各種専門家の派遣等を行っています。

※6次産業化とは?

生産物の価値を上げるため、農林漁業者(1次産業)が、食品加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)にも取り組むことです。

事業承継への取り組み

地元企業の持続的成長と地域経済の発展に貢献するため、事業承継に関するサポートを積極的に行っています。

2018年9月には「アルファバンク事業承継税制セミナー」を開催し、10月には第3期「アルファバンクの後継者塾」を開講しました。



「アルファバンクの後継者塾」参加者の声

- 多くの分野を学べるカリキュラムだったので、自身に足りない部分を補えると考え、参加しました。
- 一緒に勉強したことで、同じ志を持ち、学びを与えてくれる仲間が作れました。今後の自分にとって大きな財産になりました。

TOPICS

地域を元気に! 京葉銀行野球部

当行野球部は、地元中学校と合同練習を行うなど、地域振興やスポーツを通じた次世代育成支援に取り組んでいます。

2018年9月には、地域の皆さまのあたたかいご声援のもと、千葉県代表として「天皇賜杯第73回全日本軟式野球大会」に出場し、5年ぶり7回目の全国制覇を果たしました。



さらなる発展へ向けて

少子高齢化やデジタル化など、大きく変化する社会環境に対応し、持続的に成長していくために、さまざまな取り組みを行っています。



人財活躍への取り組み

お客さまに付加価値の高いサービスを提供するため、能力開発やキャリア形成、ワークライフ・バランスの実現等、多様な人財が意欲を持って、いきいきと働ける環境整備を進めています。

シニアスタッフ行員制度の新設

働く意欲のある経験豊富な行員を70歳まで継続雇用する制度を新設しました。高度な知識・経験・技能を活かし、お客さまに質の高いコンサルティングを提供するとともに、若手行員を育成するなど、活躍の場を広げています。

TOPICS

笑顔広がれ! ダイバーシティ推進

さまざまな人財が個性や能力を最大限に発揮できるよう、介護による短時間勤務制度や男性の育児休業取得促進等、制度を整えるとともに、夫婦で仕事と育児の両立について考える「Family Café」や育児休業から円滑に復帰するための研修などを行っています。



オムニチャネル化への取り組み

お客さまのニーズに応じて“いつでも”“どこでも”便利で安心、快適なサービスをご利用いただけるよう、企業連携やデジタル技術も活用し、「オムニチャネル化」に取り組んでいます。

・非対面チャネルの強化

平日のご来店が難しい方にも、当行のサービスをご利用いただけるよう、非対面チャネルの強化に取り組んでいます。

2018年8月には、FinTech企業との連携により、当行アプリで提供する資産管理サービス「一生通帳 by Moneytree」に、支出グラフ等の便利な機能を拡充しました。



・次世代型店舗の展開

対話型カウンター等のデジタル技術を活用することで、お客さまの手続き負担を軽減し、ゆっくりとご相談いただける「次世代型店舗」への取り組みを進めています。

2018年7月には、次世代型店舗である印西支店内に近隣の布佐支店を移転しました。拠点集約による効率的な営業体制を構築することで、より充実したサービスを提供しています。

・RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)※の本格導入

行内の事務作業にかかる時間を削減し、お客さまとの接点拡大に繋げ、質の高い金融サービスの提供に努めています。

2018年7月には、専門部署としてRPA推進チームを新設し、定型的な業務全般の自動化を加速させるための体制を整えました。

※ロボット(ソフトウェア)による業務自動化のことです。

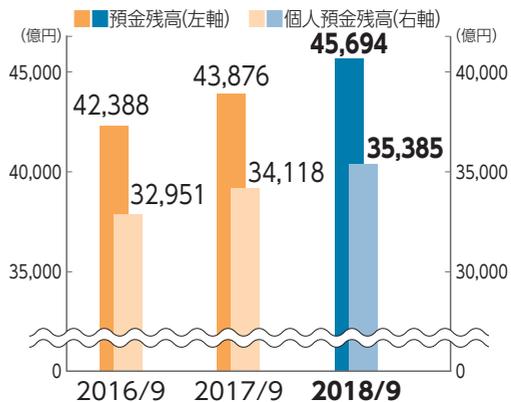
2018年9月期の業績につきましては、預金および貸出金の残高は順調に増加しました。

また、収益面では、経常利益は前年同期比14億3百万円減少し、77億50百万円、中間純利益は前年同期比9億26百万円減少し、53億61百万円となりました。

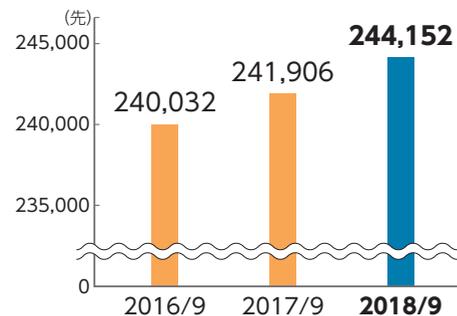
■預金残高・個人預金残高

4兆5,694億円
(年間増加率4.1%)

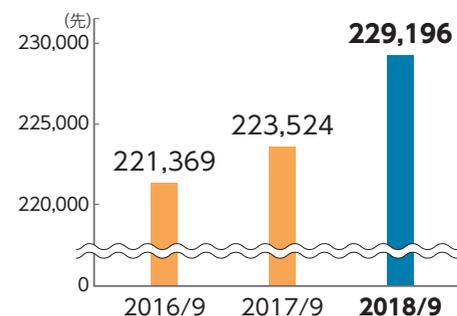
給与振込や年金振込の取引拡大等により預金残高は、前年同期比1,818億円増加し、4兆5,694億円(年間増加率4.1%)となり、個人預金残高は前年同期比1,267億円増加し、3兆5,385億円(年間増加率3.7%)となりました。



■給与振込指定先数



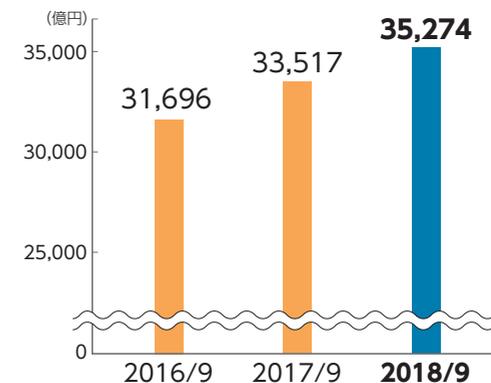
■年金受取指定先数



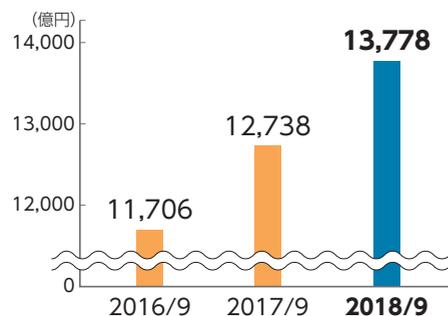
■貸出金残高

3兆5,274億円
(年間増加率5.2%)

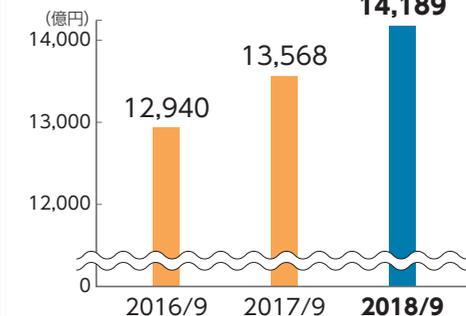
中小企業向けや、住宅ローンを中心とする個人向けの貸出推進に積極的に取り組んだ結果、前年同期比1,757億円増加し、3兆5,274億円(年間増加率5.2%)となりました。



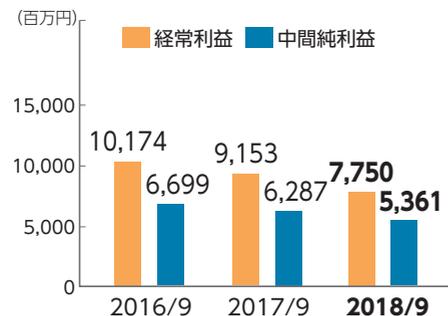
■中小企業向け貸出金残高



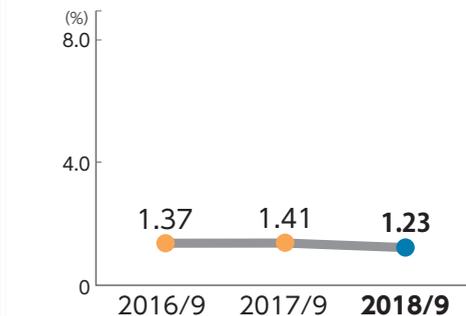
■住宅ローン残高



■経常利益・中間純利益



■不良債権比率(金融再生法基準)



■ 中間貸借対照表

（単位：百万円）

	第111期 (2016年9月30日現在)	第112期 (2017年9月30日現在)	第113期 (2018年9月30日現在)
資産の部	4,618,994	4,753,096	4,902,628
うち貸出金	3,169,633	3,351,748	3,527,463
うち有価証券	1,022,171	969,428	916,995
資産の部合計	4,618,994	4,753,096	4,902,628
負債の部	4,336,523	4,463,961	4,609,832
うち預金	4,238,820	4,387,654	4,569,482
純資産の部	282,471	289,135	292,796
うち株主資本合計	230,922	239,342	247,727
負債及び純資産の部合計	4,618,994	4,753,096	4,902,628

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■ 中間損益計算書

（単位：百万円）

	第111期 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	第112期 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	第113期 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
経常収益	34,037	32,612	33,453
うち資金運用収益	25,737	25,002	24,396
うち役員取引等収益	4,920	4,972	5,323
経常費用	23,863	23,458	25,702
経常利益	10,174	9,153	7,750
特別損益	△426	△153	△84
法人税等合計	3,048	2,713	2,304
中間純利益	6,699	6,287	5,361

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

（第113期 注記）

1. 1株当たり純資産額 2,216円11銭
2. 1株当たり中間純利益 40円63銭
※当事業年度の期首に株式併合が行われたと仮定して、算定しています。(2018年10月1日付で、普通株式2株を1株にする株式併合を行いました。)
3. 2018年9月末における単体と連結の総資産の差額は46億円と連結総資産4兆9,072億円の0.1%未満と軽微なため、単体のみ表示しています。

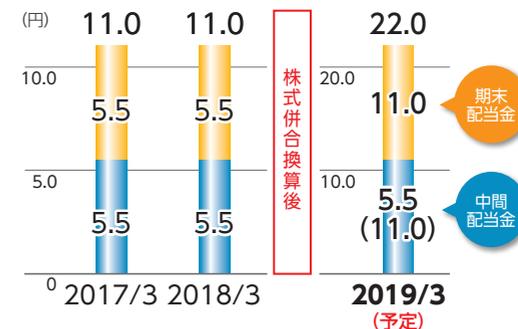
■ 単元株式数の変更および株式併合

2018年10月1日付で、当行普通株式の単元株式数を1,000株から100株へ変更しました。また、投資単位を全国証券取引所が望ましいとする水準（5万円以上50万円未満）に調整することを目的として、株式併合（2株を1株に併合）を行っています。

■ 年間配当金（1株当たり）

1株当たりの中間配当金は、当初計画通り、5円50銭としました。なお、2019年3月期の期末配当金（株式併合後）は、11円を予定しています。

※株式併合を考慮しない場合、期末配当金（予想）は、1株当たり5円50銭（年間配当金11円）と、2018年5月9日に公表した配当予想に実質的な変更はありません。



※2019年3月期年間配当金については、10月1日付株式併合を反映して記載しております。

■ 株主優待制度

日頃のご愛顧に感謝を込めて、株主優待制度をご用意しています。

優待1

ギフトカードの贈呈

● 3月31日において1年以上継続して500株以上保有されている株主さまご本人

株主さまの保有株数に応じて年1回プレゼント!

- 500株以上 2,500株未満 … **1,000円相当**
- 2,500株以上 5,000株未満 … **3,000円相当**
- 5,000株以上 … **5,000円相当**

優待2

株主優待定期預金

● 500株以上保有されている株主さまご本人
● お取扱期間は年2回

スーパー定期

店頭表示金利 +年0.2%

- 500株以上 5,000株未満 … **100万円まで**
- 5,000株以上 … **200万円まで**

満期日前にご解約された場合、当行所定の中途解約利率が適用されます。

※2019年3月31日における株主さまを対象として実施される株主優待より、上記内容が適用されます。

※くわしくはお近くの営業店、もしくは京葉銀行総務グループへお問い合わせください。

☎ 0120-367-300 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝日および12月31日～1月3日は除きます）

株式の状況 (2018年9月30日現在)

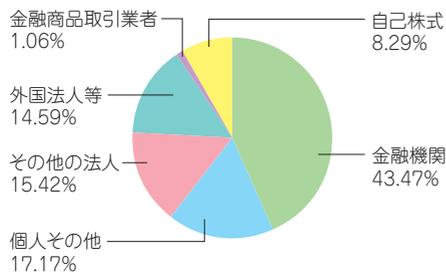
株式数
 発行可能株式総数…………… 790,029千株
 発行済株式の総数…………… 287,855千株
 (注) 株式数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※2018年10月1日付で株式併合(2株を1株に併合)を実施いたしました。
 これにより、発行可能株式総数は395,014千株、発行済株式の総数は143,927千株となっております。
 株主数…………… 14,237名

大株主 (2018年9月30日現在)

氏名または名称	持株数等 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,145	6.11
株式会社千葉銀行	12,213	4.62
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	10,357	3.92
三井住友海上火災保険株式会社	7,518	2.84
住友生命保険相互会社	7,122	2.69
京葉銀行職員持株会	7,070	2.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,438	2.43
明治安田生命保険相互会社	5,939	2.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,743	2.17
千葉県民共済生活協同組合	5,410	2.04

(注) 1. 上記のほか、当行所有の自己株式23,842千株があります。
 2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 3. 持株比率は自己株式(23,842千株)を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株式の分布状況 (2018年9月30日現在)



株式のご案内

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月
定時株主総会の基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
単元株式数	100株 ※2018年10月1日付で1,000株から100株へ変更しております。
公告方法	電子公告により当行ホームページに掲載します。 (ホームページアドレス https://www.keiyobank.co.jp) ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人事部 ☎0120-707-843 特別口座でのお手続き用紙のご請求をインターネットでもお受けしています。 ホームページアドレス https://www.jisa-hp.co.jp/name/index.html (一部の用紙は、お手持ちのプリンターで印刷できます)
(郵送物送付先) お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人事部 ☎0120-707-843

役員の状況 (2018年9月30日現在)

取締役

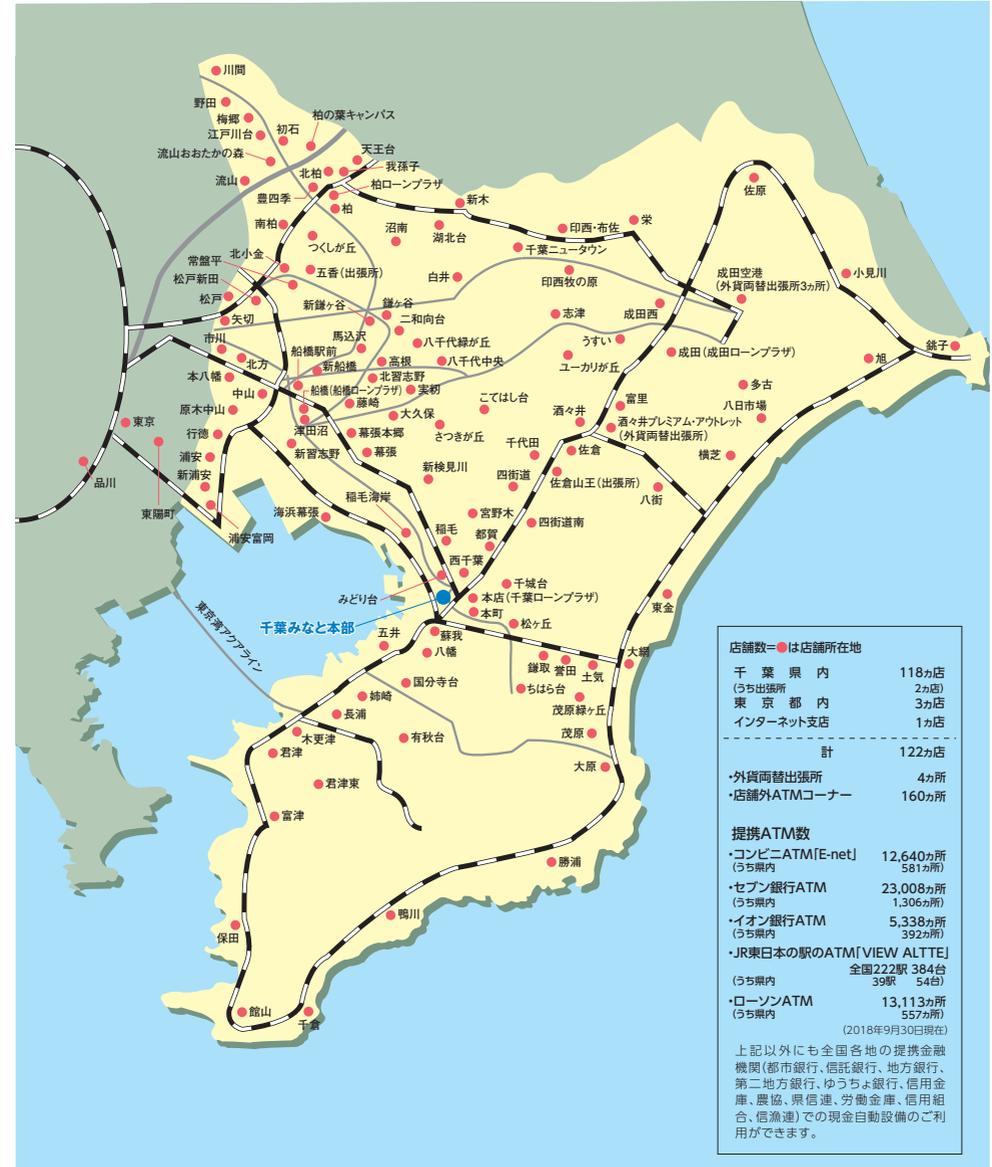
取締役頭取 (代表取締役)	取締役副頭取 (代表取締役)	取締役 専務執行役員
熊谷 俊行	橋本 清	大島 浩司

取締役 常務執行役員	取締役 常務執行役員	取締役 常務執行役員
君塚 一郎	逆井 哲也	秋山 智

社外取締役	社外取締役	社外取締役
齋藤 康	秋山 勝貞	内村 廣志

監査役

常勤監査役	常勤監査役	
深山 正嗣	高橋 弘一	
社外監査役	社外監査役	社外監査役
小野 功	重田 雅行	花田 力



県内のバリアフリー施設を千葉県が紹介する「ちばバリアフリーマップ」に当行の店舗が掲載されています。

千葉県健康福祉部「ちばバリアフリーマップ」

<http://www.pref.chiba.lg.jp/pbbfmap/>